

センターレポート

経営見通し「良化予測」が減少し、「悪化予測」が増加

電気機器製造業では良化予測が増加

－平成15年上半期経営予測調査－

2002.12月調査

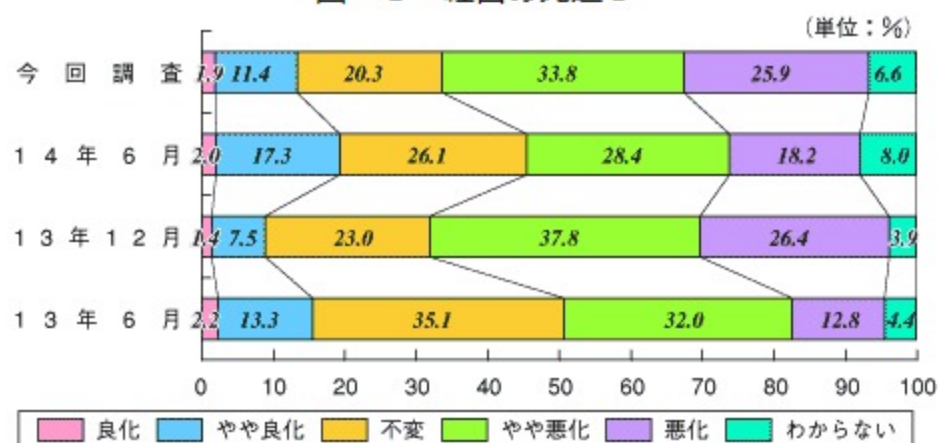
調査概要	
調査時期	平成14年12月
対象	県内中小企業1,000社
回答	482社 (回答率48.2%)
調査方法	郵送によるアンケート調査

● 経営の見通し

平成15年上半期（1～6月）の自社の経営見通しは、「良化」が1.9%、「やや良化」が11.4%で、これらを合わせた良化とする景気予測は13.3%と、前回調査（14年6月）の19.3%と比べ6ポイント減少した。

一方、「悪化」「やや悪化」を合わせた景気予測は59.7%となり、前回調査の46.6%より13.1ポイントも増加している。（図－1）

図－1 経営の見通し



● 業種別経営の見通し

自社の経営見通しを業種別にみると、「良化」「やや良化」を合わせた良化予測は製造業では17.2%（前回調査24.0%）、非製造業では10.1%（前回調査15.8%）となり、いずれも良化を予測する企業が前回よりも減少している。一方、「悪化」「やや悪化」を合わせた悪化予測は製造業では56.7%（前回調査42.0%）、非製造業では62.2%（前回調査50.0%）となり、いずれも10ポイント以上増加している。

自社の経営見通しをさらに個別の業種でみると、良化予測が悪化予測を上回ったのは、製造業の電気機器のみで45.5%の企業が良化を予測している。その他、良化予測が2割を越えた業種は製造業の一般機械と精密機器となっている。非製造業で良化予測が最も多かったのはサービス業・その他の12.3%であった。

これに対し、悪化予測が目立ったのは、製造業では食品品、繊維・衣服、木材・木製品・家具、その他製造業で、非製造業では建設業、小売業であった。特に製造業の食品品と建設業が悪化を予測する企業割合が7割超となった。（図－2）

自社の属する業界の見通しで、良化と予測する企業は5.8%（前回調査12.8%）、悪化を予測する企業は67.0%（前回調査48.8%）となり、前回よりも業界の見通しが厳しくなると予測する企業が増加し、自社の見通しよりも厳しい予測となっている。

業種別にみると、業界の良化を予測する割合が、自社の良化を予測する割合を上回ったのは卸売業だけであった。製造業の電気機器は自社の悪化予測が27.1%であったのに対し、業界の悪化予測は54.6%と厳しい見方をしている。

図－2 業種別経営の見通し

